

会場 The hall

NASPA ニューオータニ

〒949-6101新潟県南魚沼郡湯沢町湯沢2117-9
TEL:025-780-6111
FAX:025-780-6223
http://www.naspa.co.jp



アクセス Access

○新幹線

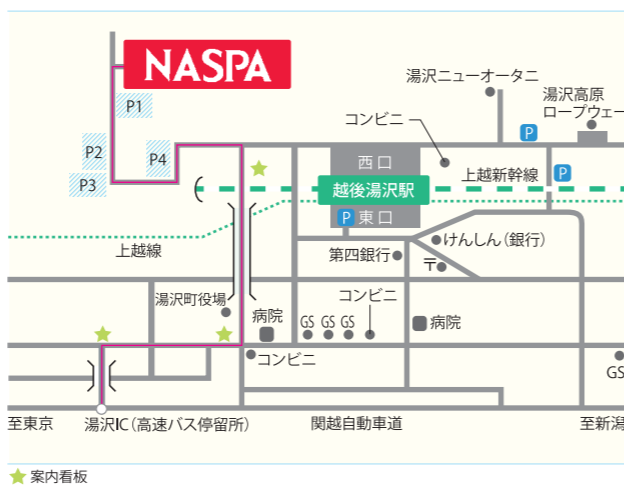
東京～越後湯沢 約1時間20分 越後湯沢駅西口
新潟～越後湯沢 約1時間 越後湯沢駅西口

○越後湯沢駅～ホテルの所要時間

徒歩の場合(約1.5Km)約25分
タクシー又はシャトルバス(約1.5Km)約3分
※駅からホテルまでは坂道が続いておりますので、お越しの際は
タクシー又はシャトルバスのご利用をお勧めいたします。

○お車

関越自動車道練馬IC～湯沢IC約2時間
湯沢IC～NASPA約5分



参加申込方法

インターネットから10月31日[金]までにお申し込みください。

新潟県健康ビジネス連峰政策ホームページ www.kenko-biz.jp

※会議への参加、レセプションへの参加、昼食の要否等については、当該ホームページの
入力フォームにて事前にお申し込みください。

お問い合わせ

新潟県産業労働観光部産業振興課新分野育成係

TEL:025-280-5718 FAX:025-280-5508

〒950-8570 新潟県新潟市中央区新光町4-1

「新潟県産業振興課 げんき会」 会議開催情報を順次公開します
 <http://www.facebook.com/sangyo.pref.niigata>

後援(予定)

経済産業省関東経済産業局、厚生労働省関東信越厚生局、国土交通省北陸信越運輸局、独立行政法人中小企業基盤整備機構関東本部、一般社団法人新潟県商工会議所連合会、新潟県商工会連合会、新潟県中小企業団体中央会、日本政策金融公庫、株式会社第四銀行、北越銀行、株式会社大光銀行、新潟大学、長岡技術科学大学、上越教育大学、新潟県立看護大学、新潟県立大学、日本歯科大学新潟生命歯学部、新潟薬科大学、新潟産業大学、新潟経営大学、新潟工科大学、新潟医療福祉大学、国際大学、事業創造大学院大学、北里大学保健衛生専門学院、新潟日报社、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、日本経済新聞社新潟支局、日刊工業新聞社新潟支局、健康産業新聞、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、株式会社文化放送、株式会社ニッポン放送、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0

健康ビジネスサミット

う おぬま 会議 2014

イノベーション・オブ・ライフ
新しい出会いと新しい価値を生み出していく



Health Business Summit
UONUMA CONFERENCE

2014.11.6[木]→7[金] 6日10:00～18:30 7日9:30～16:30

会場 NASPA ニューオータニ 新潟県南魚沼郡湯沢町湯沢2117-9

主催/新潟県、一般社団法人健康ビジネス協議会 共催/公益財団法人いがた産業創造機構



11月6日 [木]

○会議 A [10:15 ~ 12:15] **主催** (一社)健康ビジネス協議会 HAS検討委員会

「HAS (Happy & Healthy Aging Scene) プロジェクト会議」

2030年には3人に1人が65歳以上となる超高齢社会を迎えます。その中で、高齢者が健康で生きがいを持ち、幸せを感じながら住み慣れた地域で自立した生活をし、最後まで自分らしく暮らし続けることのできるシーンを想定し、その達成のために必要とされるモノ・コトを産官学及び地域の人と創造する事業が「HASプロジェクト」です。

本会議では、HASプロジェクトの取組状況について紹介し、参加企業を募ります。

- ①「HASプロジェクトの概念について」
- ②「HASプロジェクトのモデル的取組事例紹介」
- ③「HASプロジェクト参加企業の募集について」



生きがい
幸せ

○オープニング [13:15 ~ 13:30] **主催・来賓挨拶**

○会議 B [13:30 ~ 15:30] **主催** (一社)健康ビジネス協議会 サービス・交流部会

「世界のトップアスリートを新潟から輩出し続けるために
~新潟ウィンタースポーツサポートシステムの構築に向けて~」

世界で活躍できるトップアスリートを育成するとともに、引退後も社会人として活躍できる社会の仕組みを構築するには何が必要か、健康ビジネス協議会が中心となり議論しているところです。また、この仕組みを構築する中で新たなビジネスが生まれる可能性が大いにあります。

本会議では、世界と日本のスポーツを取り巻く環境の違いを議論するとともに、新潟ウィンタースポーツサポートシステム構築の意義や進捗状況等について報告します。

- ①新潟ウィンタースポーツサポートシステム構築会議
座長 佐藤 巧氏(一社)健康ビジネス協議会 サービス・交流部会長
アドバイザー 三浦 豪太氏 ((株)ミウラ・ドナルド・フーズ、博士(医学)、(一社)健康ビジネス協議会アドバイザー)
- ②パネルディスカッション
コーディネーター 三浦 豪太氏
パネリスト
平野 歩夢 選手 (ソチ五輪スノーボード男子ハーフパイプ銅メダリスト)
小野塚 彩那 選手 (ソチ五輪フリースタイルスキー女子ハーフパイプ銅メダリスト)



トップ
アスリート
の育成

○会議 C [16:00 ~ 18:00] **主催** 日本災害食学会、(一社)健康ビジネス協議会

「首都直下地震への備えと新潟の役割」

首都直下地震では東日本大震災を上回る被害が想定されています。新潟県では、この10年の間に起きた二度の震災により、被災生活支援の経験を積み重ね、災害時に役立つ食品や防災用品もその体験から生み出されてきました。

本会議では、首都直下地震の減災に向けて、被災生活を支える食の課題を中心に、東日本大震災の経験と東京の現状から、自治体、企業等はどう備えるべきか、どのような役割を担えるのか、課題を明確化し、その解決に向けた具体的な提案を行っていきます。

- ①「災害食と新潟」
門脇 基二氏 (日本災害食学会 会長)
- ②「首都直下地震への東京の備えと新潟の役割」
鈴木 正弘氏 ((一財)危機管理教育&演習センター 評議員)
- ③「教訓を活かす備えとは」
土居 邦弘氏 ((独法)国際農林水産業研究センター 農村開発領域長)
- ④「(一社)健康ビジネス協議会の役割」
川井 義博氏 ((一社)健康ビジネス協議会 食部会長)



災害時の
食の確保

○情報提供 [18:00 ~ 18:15] 「(一社)健康ビジネス協議会認証制度の取組について」

○レセプション 18:30~20:00 **参加費 お一人様5,000円**

11月7日 [金]

○会議 D [10:00 ~ 11:30] **主催** (株)Unibio、(一社)健康ビジネス協議会

「植物バイオ技術を活用した地域クラスター形成に向けて」

植物を用いて有用タンパク質を生産する技術を持つベンチャー企業を中心となり、製品開発や販路開拓に強みを有する企業等と連携して地域クラスターを形成し、美容や再生医療等の新たな健康ビジネスを創出しようとする取組が進められています。

本会議では、この植物バイオ技術とその可能性、全国各地の地域クラスターの取組について紹介します。

- ①「植物バイオ技術を活用した健康ビジネス創出の概要」
佐藤 弘子氏 ((株)UniBio 取締役商品企画部長)
- ②「植物バイオ技術を活用したEGF製造の取組について」
長谷川 敏美氏 ((株)UniBio 研究員)
- ③「全国各地の地域クラスターの取組紹介」
内田 裕之氏 (ホシケミカルズ(株) 企画開発室長)
- ④「再生医療の現状とバイオ技術の役割について」
中田 光氏 (新潟大学歯学部総合病院 センター長・教授)



最先端
バイオ技術



地域
クラスター

○会議 E [12:00 ~ 13:30] **主催** NPO法人プロジェクト88、(一社)健康ビジネス協議会

「食育を通じた防災教育」

防災の意識を高めるためには、幼少期から防災を身近に感じる事が非常に大切です。東日本大震災をきっかけとして、全国的に防災学習を取り入れる保育施設・学校等が増えてきています。

本会議では、食をテーマとした特徴的な防災教育の取組を紹介するとともに、防災教育で使用された「災害食」を試食いただきます。

- ①「防災給食の取組」
井口 一郎氏 (南魚沼市長)
- ②「災害食の普及の取組」
別府 茂氏 (新潟大学大学院特任教授)
- ③「農食防教育」
中村 正人氏 (長岡市立表町小学校教諭)
- ④「防災備蓄品を給食に」
松本 恭子氏 (墨田区立押上小学校管理栄養士)



災害時の
食の確保

※本会議はランチョンセミナー形式です。防災給食で使用された食事を昼食として食べながら聴講いただきます。
参加者は当日1,000円ご負担いただきます。

○会議 F [14:00 ~ 16:30] **主催** 食品機能性地方連絡会、(一社)健康ビジネス協議会

「食品機能性地方連絡会(11月会合)」

食品機能性地方連絡会は、機能性を有する食品の開発と普及で地方発の産業を振興する施策を行う地方自治体、支援機関、経済団体で構成され、相互の情報の共有を行うことを目的として昨秋、発足しました。

本会議では、国が来春創設する予定の「食品の新たな機能性表示制度」と、機能性を有する食品を地域の産業振興に活かそうとする地方自治体の取組等について最新情報を提供するとともに、地方連絡会の今後の取組について議論します。

- ①「健康産業新聞記者による国の最新動向の講演」
- ②「国、省庁関係者による制度の説明」
- ③「各道府県の報告と要望の取りまとめ」
- ④「売れる仕組みづくり等の議論」



食品の
機能性表示

○健康・災害関連産業展示・商談会 [11月6日 10:00~18:30 11月7日 9:30~16:30]

※講師、内容は変更される場合があります。